

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年8月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1590200158		
法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会		
事業所名	グループホーム千秋		
所在地	新潟県長岡市千秋2丁目221番地14 (電話) 0258 - 28 - 8820		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	5月21日

【情報提供票より】(21 年 4 月 6 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人、非常勤 0 人、常勤換算13.4 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階	建ての	1 階 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)		円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有 無
食材料費	朝食	220 円	昼食	320 円
	夕食	280 円	おやつ	0 円
	または1日あたり			円

(4)利用者の概要 (平成21年 4月現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2		6 名	
要介護3	8 名	要介護4		4 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.3 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	長岡西病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な信濃川の川岸に、3階建ての総合施設「高齢者ケアセンター千秋」があり、その1階に「グループホーム千秋」がある。センターには、特別養護老人ホーム、通所介護、小規模多機能型居宅介護が併設されている。周囲には病院、美術館や文化ホール、ショッピングモール、映画館、公園などが整備され、利便性のある環境である。職員は、「寄り添って一緒に笑顔」というホーム独自のスローガンのもと、日々利用者に寄り添ったケアを実践している。家族からの意見、要望なども大切に、運営に活かしている。ホームを「住まい」として地域で暮らすということを意識して支援しており、毎日出かける買い物なども地元の人が利用するスーパーを利用するなど、地域住民との交流も大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者はサービス評価を実施する意義を理解しており、研修等で職員にも説明し、全員で自己評価を実施している。地域との関わり、ケアのあり方などについて多くの気づきを再確認することができ、ひとつずつ改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われている。事業所の日頃の取り組みや課題などについて報告しており、それに対して委員から出された意見を活かし、サービスの向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には面会時などに、利用者の暮らしぶりや職員の異動の状況などを伝えている。面会時やケアプラン会議などで直接意見を聞くほか、家族がいつでも意見や要望、苦情を出せるよう、センター全体の入り口に意見箱を設置している。家族からの意見により職員の顔写真と名前を掲示するなど、寄せられた意見や要望は運営に反映し、サービス向上に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する町内会から、地域の催し物や祭り、敬老会等に誘ってもらっている。また、運営推進会議等を通じて、地域住民にも気軽に立ち寄っていただけるよう働きかけている。毎日の買い物では地元のスーパーに行くなどし、日常的に地域住民との交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	センター全体で、住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らしていけるよう支援を行っていくという理念が創り上げられている。この理念を踏まえて、「寄りそって一緒に笑顔」という事業所のスローガンを掲げ、スタッフルームに掲示して毎日確認し合っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎月のミーティングなどを通じて理念を共有し、日々の実践のあり方などについて話し合いを行っている。また、職員の目に入る場所に理念を掲示し、常に意識してケアにあたるよう努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、面会に来られた折に、理念に基づいたケアのあり方などを伝えている。また、運営推進会議を通じて、地域代表の方々に理念を伝え、理解してもらえるよう働きかけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する町内会から、地域の催し物や祭り、敬老会等に誘ってもらっている。また、運営推進会議等を通じて、地域住民にも気軽に立ち寄っていただけるよう働きかけている。毎日の買い物では地元のスーパーに行くなどし、日常的に地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者はサービス評価を実施する意義を理解しており、研修等で職員にも説明し、全員で自己評価を実施している。地域との関わり、ケアのあり方などについて多くの気づきを再確認することができ、ひとつずつ改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われている。事業所の日頃の取り組みや課題などについて報告しており、それに対して委員から出された意見を活かし、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者には、運営推進会議の内容などを定期的に報告し、事業所の状況を伝えている。また、担当地区の地域包括支援センター職員には運営推進会議に参加してもらい、意見交換を行っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、事業所内外で虐待が見過ごされることのないよう日々お互いに注意を払い防止に努めている。センター全体で行われる高齢者虐待防止についての研修会にも参加し、意識を高めている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には面会時などに、利用者の暮らしぶりや職員の異動の状況などを伝えている。また、3ヶ月に1回の頻度でケアプラン会議を開催し、家族にも参加して頂き、本人に関する情報を共有し、ともにケアのあり方を検討したり、意見を伺う機会としている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がいつでも意見や要望、苦情を出せるよう、センター全体の入り口に意見箱を設置している。また、面会時やケアプラン会議などで、直接意見などを伺う機会も多い。家族からの意見により職員の顔写真と名前を掲示するなど、寄せられた意見や要望は運営に反映し、サービス向上に活かしている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを毎月、ホーム全体のミーティングを2ヶ月に1回開催し、運営に関する職員の意見や提案を聞いている。そこで出された意見は運営者に報告、検討され、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者が馴染みの職員の支援が受けられるよう配慮した上で、職員の異動など、組織として必要な人員配置を行っている。職員が利用者全員を理解するため、定期的に担当替えを行っているが、本人や家族への説明と職員間の引き継ぎを十分に行い、ダメージの軽減やケアの継続に努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	業務に関する各種マニュアルが整備されている。職員の見やすい場所におかれ、使用しやすいようになっている。センター全体の各種委員会が中心となってマニュアルの見直しが適宜行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター全体で研修委員会が中心となって研修計画を立て、月1回の頻度で業務に関する様々な研修が行っており、職員の専門性の向上に取り組んでいる。また、法人外の研修も受講できる機会が確保されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県グループホーム協議会に積極的に参加することで、同業者との交流、意見交換、ネットワーク作りに努めている。また、長岡市主催の管理者研修に参加し、地域の同業者との情報交換などを通じてサービスの質の向上に努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、ミーティングなどを通じて積極的に職員の意見や思いを聞くようにしている。職員が一人で悩むことがないように、常日頃から声かけや相談しやすい雰囲気づくりに努めている。気分転換ができるよう休憩できる場所も確保されている。		職員は、昼休みなども現場にいる状況がある。交代で現場を離れられるようにするなど、より心身を休めることができるものとなるよう、職員の休憩のあり方へのさらなる検討を期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用のための事前面接などを通じて、家族から本人の生活様式や意向をよく聞くようにしている。その上で、家族と相談し、本人と家族と一緒に見学に来ていただいたり、お試し利用などを通じて、場の雰囲気に少しずつ馴染んでもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごし、ともに支え合う関係をつくることを常に心がけている。野菜や花の育て方などを教えてもらうなど利用者から学ぶ機会も多く、利用者と共に暮らすということを大事に日々を過ごしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、職員は、家族とは共に協力し合いながら本人を支えていくという意識をもち、家族とのコミュニケーションを大切に、日頃から本人の状況を伝え、情報共有している。ケアプラン会議には家族からも参加してもらい、ケアの在り方を一緒に検討したり、意見交換をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を聞き、本人本位のケア提供に努めている。		本人の思い、希望などの把握についてはセンター方式のアセスメント様式を活用しているが、本人の立場に立った思いや希望の把握が不十分、ないし求められている内容と異なる表現の記述がみられた。再度、職員全体で、利用者の思いや希望、意向の把握と、その記録のあり方について確認をしてほしい。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問では、利用者のこれまでの生活歴や暮らしぶり、習慣、生活されていた部屋の様子、周囲の環境などを、家族から聞いた。実際に見たりして把握するよう努めている。入居後も、利用者との関わりの中で情報を把握し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の思い、意向を聞き、本人本意の介護計画を作成している。また、関係する職員からの意見やアイデアを出してもらい、本人のためにより良い計画になるよう努めている。		介護計画の長期目標と短期目標が同じ文言で繰り返されているものがあつた。長期目標を達成するために、何をどうするのかより具体的な目標が短期目標として設定されることが望まれる。今一度、職員全体で、長期目標と短期目標の考え方について検討、確認をしてほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、家族にも参加していただき介護計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化があつた場合は、家族に連絡して意向を確認し、現状にあつた介護計画に修正している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、希望を受けて、外出や受診介助、生活リハビリの支援など、柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望したかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医からは定期的に適切な指導、助言を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	センター全体で看取りケアの委員会が設置されており、看取りのあり方について検討がされている。事業所として家族の希望に応じ柔軟に対応する姿勢である。かかりつけ医、家族、事業所が連携し、全員で方針を共有するよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や入浴の声かけなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないような言葉かけや工夫に努めている。記録などの個人情報、鍵のかかる保管場所等で適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや個性を大切にしており、基本的な1日の流れはあるが、その日の過ごし方は本人の意向や希望を尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を利用したり、みんなで作った野菜を活用したりして、食事作りが楽しい場になるよう支援が行われている。利用者と一緒に協力して食事作りを行い、一緒に会話を楽しみながら食べている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンや力を把握し、必要に応じてトイレへの声かけなどをして、失敗せずに気持ちよく排泄できるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて、ゆっくり気持ちよく入浴ができるよう支援している。利用者の希望に応じて同性介助にも対応している。		優先すべき業務との兼ね合いの中で、入浴は概ね週2回の頻度で行われている。これから夏を迎え汗をかく時季となり、毎日風呂に入りたいという希望も出ると考えられる。利用者や家族のニーズを踏まえ、入浴回数について再度検討していただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意、洗濯たたみ、草取り、買い物など、利用者一人ひとりの経験や習慣、知恵を活かし、役割を担ってもらっている。また、遠出の外出や地域行事への参加など、楽しみごとについても利用者と相談しながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望、気分に応じて、日常的に散歩、買い物、ドライブなどを取り入れ、戸外に出かけられるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センター全体で身体拘束防止委員会が設置されており、職員に対する日々の意識付けを徹底している。また、職員研修において定期的に身体拘束をしないケアを検討し、理解を深めている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害について十分理解しており、夜間、防犯上の施錠を除いては、日中玄関に鍵をかけることはない。利用者の自由を優先し、安全確保策について十分に検討が行われている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの利用者の事故のリスクについて職員全体で情報を把握、共有に努めている。センター全体で事故防止対策委員会が設置されており、事故防止に対する情報交換や検討会が行われている。		ヒヤリハット、事故の報告書について共通の書式が用いられ、その都度報告することになっているが、事故かヒヤリハットなのか明記されていない報告書が見受けられた。また、ヒヤリハットの報告がほとんどなく、危険予測がなされているという記録の確認ができなかった。ヒヤリハット、事故報告書を活用した事故防止のあり方について再度事業所内で検討、確認をし、さらなる事故防止へとつなげることを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時への対応のため、年2回消防署員の指導を受けて救急時の対応法などの訓練を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	センター全体で防災委員会が設置されており、年2回消防署の協力を得て、夜間を想定した防災訓練を行っている。地域住民に対しては、地震等の際に避難所としてセンターを提供する意向を伝えたり、地域の防災訓練に参加するなどし、災害時に地域住民との連携・協力ができるよう体制づくりを進めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養バランスについては、センター全体の管理栄養士から指導を受けている。食事や水分摂取量については、チェック表を活用して一人ひとりの状態を把握し、それに応じた管理や支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>野菜を切る音、ご飯が炊ける匂いを感じてもらえるよう働きかけたり、季節に合わせた飾り付けをするなど、生活感や季節感を採り入れている。利用者同士で会話を楽しんでもらえるよう玄関ホールに長椅子を設置したり、寝転んだりくつろいだりできる畳の和室など、居心地の良い環境づくりに取り組んでいる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者本人が使い慣れた家具や布団、茶碗や思い出の写真などを持ち込んでもらい、本人が落ち着いて安心できる環境となるよう工夫している。</p>		